

新宮山彦ぐるーぷ第1942回
行仙宿・水場の復元流入土石除去並びに毛布干し作業など

◇実施日：2017年08月20日(日) 晴後曇り
 ◇参加者：川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、中前 偉、畑理清子、
 大江加予子、梶野照雄、青木宏充(持経宿前泊)。8名。
 大江加予子、梶野照雄、青木宏充(持経宿前泊)。8名。

先週日曜日に梶野、山本直子さんが、水場へ降りると、台風5号の豪雨により水場に大きな岩を含め大小の土石が流入して、水場が完全に埋まっていて、道具も無く二人で少し水を汲める程度に復元するのが精一杯で、水場の流入土石を早急に除去する必要があるとの報告があった。水場での作業は、狭くて3〜4人程度のため、一部の方に連絡協力を依頼しました。

児嶋氏は小森の農園に忘れ物をしたので、バイクで行くので新大沼橋を渡った国道で合流すると、前日20時頃に連絡がある。沖崎車に川島、大江加、畑理清が分乗し7時半前に新宮を発つ。

北山村へ入ると、最シーズンの筏下りの筏、ラフティングゴムボートを積んだ車とすれ違う。児嶋氏と新大沼橋で合流、カーブの多い道では児嶋氏のバイク走行が早い。

9時前に新宮組と中前車が登山口に着くと、梶野、青木車が既に到着し、モノレールが下ろされていた。

青木氏は、持経宿に前泊し、ヒメネズミ3匹を捕獲処分して下さったとのこと。

モノレールにザックと丸太薪(児嶋氏が池郷林道で調達し、持帰り薪割機で割ってトラックで運んだ薪)を積み、梶野の運転で沖崎氏が同乗して終点へ。その他の方達は歩いて上る。

モノレール終点で、一部の方には薪も担いで上って頂く。

ところが、児嶋氏のザックが無い、登山口で積み忘れかもとモノレールで登山口へ下る。すると傾斜のきつい斜面に落ちていて、拾って直ぐに戻って来た。

此処から第二ベンチ迄は、木陰が無く、汗で衣服がびっしょり濡れる。9時40頃に行仙宿に到着。天候も良く毛布を干すロープを東側に張り、大江、畑林、青木氏にお任せする。

川島・児嶋・沖崎・中前・梶野氏の5名は、水場へ流入した大きな岩等の土石を除去するために、大ハンマー、てこ棒(くい丸)ツルハシ、トンガ、ジョレン2個を手分けして持ち水場へ。



毛布干し



水場に流入の大きい岩除去



水場に流入の土石除去



水場の注連縄張り直す

10時15分過ぎに水場に着く、流れている水量は少ない。最初に、立っている大きな岩(約100kg)をてこ棒・ツルハシで

底に横倒し、児嶋氏大ハンマーで叩いて2〜3個に割って、水場下の谷へ川島ほり落す。一番奥からトンガ、ジョレンで土石を掻き出す、2〜3人作業なので交代しながら排除する。最後は、ゴム長靴を履いた川島が、片手鍋で砂・泥水を完全に汲み出し水場が復元した。

切れた注連縄を張り直し11時前に作業を終え、11時15分頃に行仙宿に戻る。

行仙宿に戻ると、毛布棚の毛布は全て取り出し、畳み直しされている。毛布棚に納めた時点で、湯を沸かす者、持参弁当と各自それぞれ昼食をする。

入口扉等開放にしているが、大きなアブが居なくなったが、小さいアブが時折飛んでくる。



各自で昼食準備・昼食雑談の状況

13時前から雲が多くなり、女性陣が干した毛布(約4割)を窓下に集め、男性陣が室内へ取り込み、畳んで毛布棚に収納する。腰高きの組立足(真砂・田中氏作製)を発電機室と資材倉庫から探し出し、以前の様に宿内に腰高きのテーブルを組立て、床上の備品箱、ガスコンロをテーブル上に置く。

コンテナーは、蓋をせずに放置され、食品及び備品類の整理とネズミ被害の食品等は処分する。

梶野氏は、大小のチェンソー刃を新品に交換し、動画防犯カメラ(消費電力が多くなる)を静止防犯カメラへの取替作業をされる。その後、棟屋根軒下垂木の蜂の巣跡を完全に除去する為、飛んでいた蜂を蜂スプレーで駆除して作業していると、いきなり戻って来たスズメバチに肘辺りを刺され、保冷パックで患部を冷やす。



チェンソー刃交換

敷き・掛け毛布表示

備品等整理と防犯カメラ設置

その後、棟屋根軒下から出ている換気塩ビ排煙筒の金具が、腐蝕していたので、児嶋さん持参のステンレス板を曲げて固定バンドにして釘で固定(玄関側3本、管理棟側2本)して下さり、強風に耐えられる様になった。



蜂の巣跡完全撤去

換気排煙筒の固定(玄関側)

(管理棟側)

本日の作業を終え、行者堂で中前導師にて、佐藤貫道行者の法螺貝、伊富喜秀明行者の錫杖で、久方ぶりに本来の勤行をして頂いた。

本日の作業者の記念撮影をして、14時過ぎに行仙宿から下山する。

No24 鉄塔手前の補給登山道の斜面で、青木氏が赤色く赤橙色のきのこを採取し、タマゴダケという美味な食用きのこのこと。見た感じでは、毒茸のベニテングダケ等でないの・・・？



行者堂で勤行



本日の作業者



登山口に下山

昼から夕立がある予報で在ったが、雨に降られずに14時40分登山口に着いた。

モノレールで下りた青木氏に、第一ベンチ上に白い卵殻から生えている先程の色と似たきのこが、沢山生えていてタマゴダケと思われると言うと、採って来ると上って行かれた。

我々は、青木氏が戻るまで待たずに、15時前に解散し各自帰宅の途へ。

帰宅してきのこ凶鑑を見ると、タマゴダケは、テングダケ科に属する食用きのこのこと。猛毒のベニテングダケと色が似ているが、ベニテングダケの笠にはイボが付いているとのこと。

行動タイム

新宮 7:25 → 8:55 登山口 9:05 → 9:40 行仙宿 10:00 → 10:15 水場復元作業 10:55 → 11:15 行仙宿 → 11:25 昼食 13:00 → 作業 13:50 → 勤行 → 行仙宿 14:10 → 14:40 登山口 14:55 (解散)

(記：川島、写真：川島・梶野)